

大津港活性化・再整備基本構想の策定について

1 現状と課題

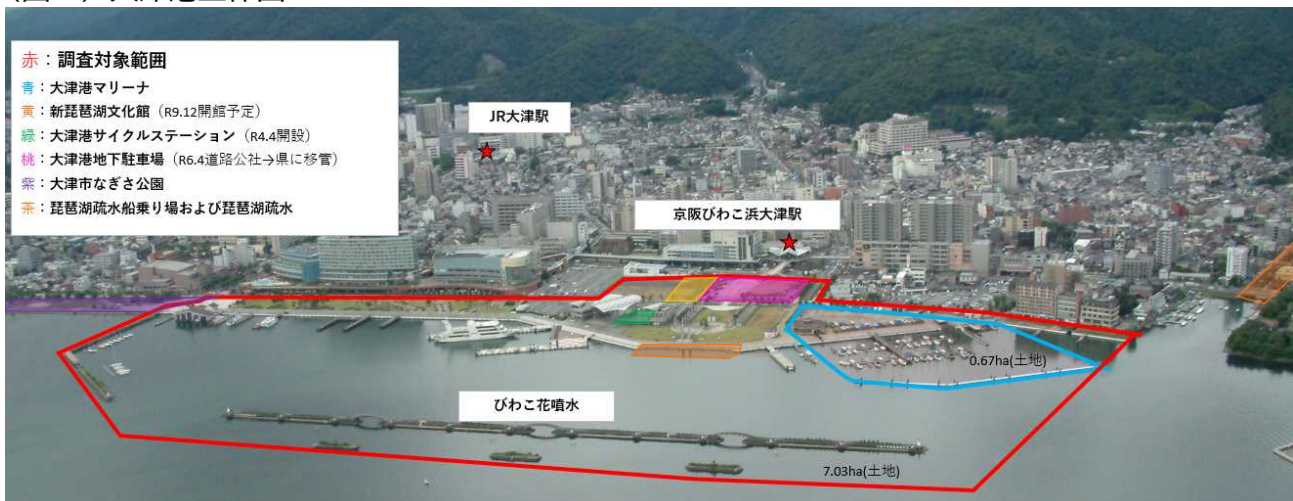
- 大津港は、昭和 60 年に定めた「大津港整備基本計画（全体計画）」に基づき整備されたが、平成 11 年 3 月の概成から 25 年以上が経過し、施設の老朽化が進行している。
また、とりまく社会情勢の変化（災害時における港湾の役割拡大、温室効果ガス排出削減、サイクルツーリズムの拡大や疏水船乗入れ等の活性化の兆し）に対して、現状の施設では応えられていない状況にある。
- この現状に対し、今後、大津港をどのような港湾としていくのかが定まっていないことが課題。
⇒ このため、まずは、大津港の今後のあるべき姿を見据え、大津港の活性化と再整備を推進するため、取組の基礎となる「大津港活性化・再整備基本構想」を策定する。

2 施策の進め方

(1) 基本構想の概略

- 現状や課題の整理を再度行った上、以下のような内容を記載した基本構想を策定する。
 - ・ 構想期間：R7 から概ね 20 年～30 年の期間
 - ・ 対象範囲：大津港の陸域及び港湾施設である水域（泊地および航路）（図 1）
 - ・ 取組主体：港湾管理者、大津市および関係の企業・団体等
 - ・ 内 容：大津港の今後のあり方（目指す姿、空間利用の方針、施策展開（大津港へのアクセス、防災機能の向上等を含む）、推進体制等）

（図 1）大津港全体図



(2) 今年度の取組

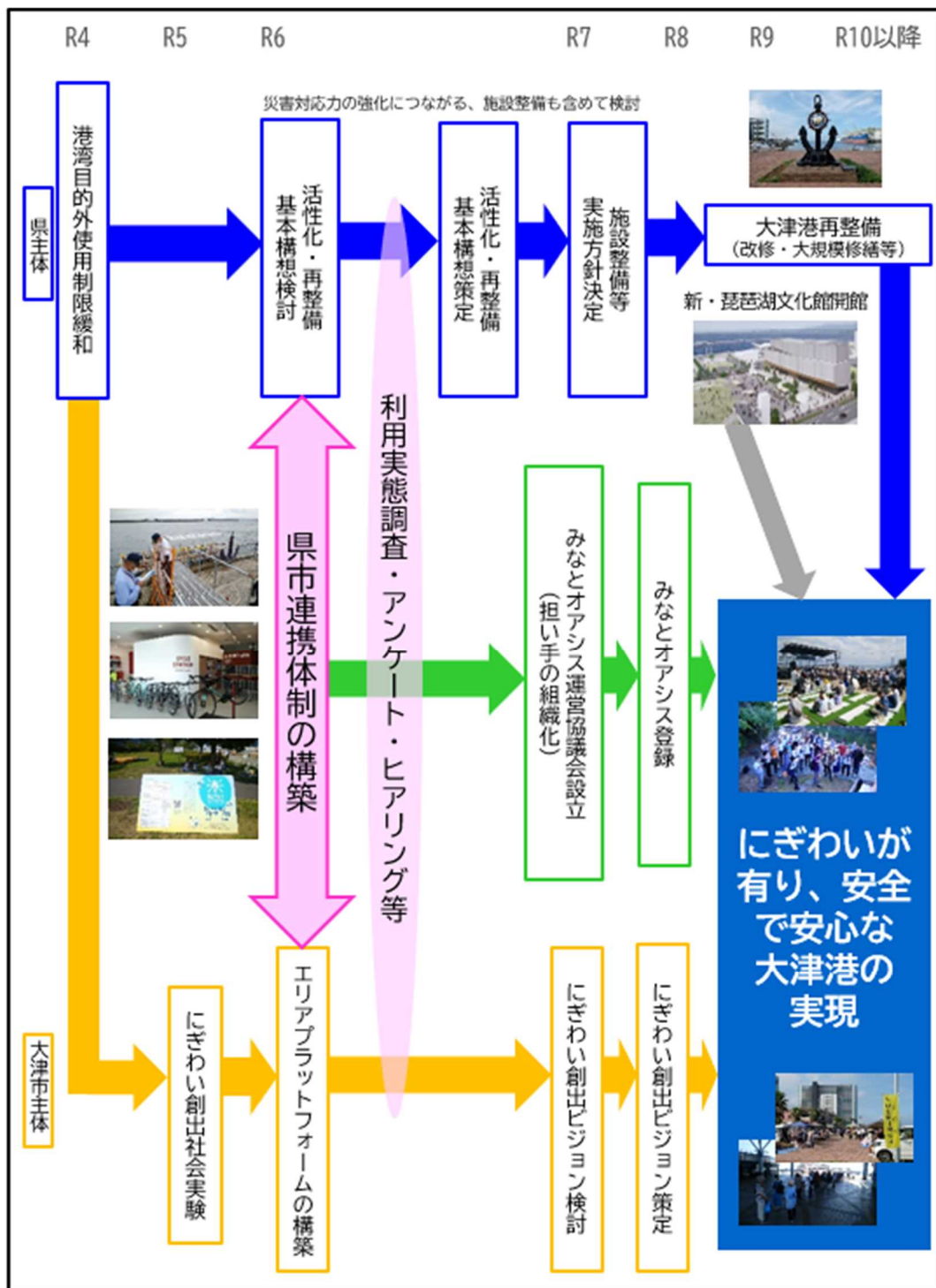
- 関係者間の意見交換を図るため、官民連携による検討会（計 3 回）を設置
 - 第 1 回：概要の説明、委託事業の説明、情報共有
 - 第 2 回：中間報告（分析の進捗報告、とりまとめの方法の協議）
 - 第 3 回：基本構想（案）の協議
- 調査・分析を委託事業により実施
（大津港利用実態調査、アンケート調査、市実施の社会実験結果の分析、とりまとめ）

⇒これらの取り組みを踏まえて、基本構想を策定

3 今後のスケジュール

- 全体のロードマップについては、図 2 のとおり。
- うち、今年度については、図 3 のスケジュールにて事業を実施する。

(図2) にぎわいが有り、安全で安心な大津港の実現に向けた、ロードマップ



(図3) 令和6年度 基本構想策定スケジュール

